

(財)日本女子社会教育会 家庭科学研究所 ○田中和子 木村静枝 竹中はる子

【目的】地球規模での環境問題は私達の生活と密接に結びついている。現在、政府間レベルあるいは企業間レベルにおいて環境問題は検討されているが、市民レベルでの参加が明らかではない。そこで各家庭、市民が具体的に環境整備に役立つことのできる方法があればとの考えから、「身近な環境整備」をテーマに調査、研究を始めた。その手始めとして、家庭から発生したごみの計量調査を実施し、その実体を知ることが目的とした。

【方法】文京区在住の53名の女性に1週間の家庭ごみ計量調査を依頼した。計量記入のため、可燃ごみ10種類、分別ごみ9種類に分類した用紙を調査協力者に配付し、重量を10g精度で記入し、該当する処理方法を選択してもらった。

【結果】①1人1日あたりの家庭ごみ発生量が見出された。②発生した家庭ごみの重量比と容積比が求められた。③家族人数別、年代別、職業別による発生量の相違が得られた。④ごみ処理方法選択により得られたリサイクル状況については、一戸建て住宅居住者と集合住宅居住者との相違、専業主婦と有職者との相違が得られた。これらについて詳述する。